

## 訪問介護事業所、現状把握のための調査集計結果(令和3年度)

### 調査結果

長生郡市内の指定事業所【42】(ワムネット調べ)へ配布。回答事業者【13】  
【 】の数字=回答数値 ■=記入回答 赤文字=最多項目

#### 1、あなたの職種を教えてください。

管理者【5】 サービス提供責任者【5】 常勤ヘルパー【4】 登録ヘルパー【0】  
その他【0】

#### 2、コロナウィルス感染拡大における事業所状況

コロナウィルス感染拡大予防政策(自粛要請等)でサービス提供が  
増えた【0】  
減った【1】  
変わらない【12】

##### 1) /増えた/減った/を選んだ方、その原因はなんだと思いますか?\*複数回答可

利用者外出自粛の為【0】

家族の仕事の都合【0】

家族の意向(不安等)【1】

サービス事業所の事情(サービス時間短縮、回数制限等)【0】

##### 2) 現在コロナウィルス関連で困っている事はなんですか?\*複数回答

訪問時の感染予防対策【8】

職員のストレスケア【5】

衛生物品の確保【4】

利用者や家族の協力や理解(外出自粛や検温等の協力)【3】

発熱者への対応(医療機関の受け入れ等)【0】

他【0】

・困っている事はないが、いつでも手指の消毒ができるように消毒液を持参。

・ご利用者の外出自粛。検温は守られていると思う。

### 3、訪問介護の業務の現状について教えてください。

多忙である（プライベートの時間も頭から離れない。業務している。） 【5】

多忙ではない（一般的な範囲である）【7】

考えた事はない【1】

・24時間365日、利用者の生活があり、そこに必要とする支援なので頭から離れないのは当然と思っているが、続けていく為には自分の息抜き・楽しみの時間をわずかでも継続して作っていく事で、持続していくと思います。もうすぐ、35年目になりますが、そうしています。絵画や、書道・読書・音楽を聴くなどしてわずかでも時間を作っています。

・ご利用者1人1人の生活経験が違う様に、考え方も違ってきます。そのような中で介護サービスをご利用される方で、すべてが介護保険でまかなえる事ではない事。介護サービスをうける中で、できる事とできない事があることを常にご利用者に話している。

・ダブルブッキング、訪問の漏れが無いかな不安で良い方法がないか知りたい。

・皆で分担して業務をしている。

・残業もほとんどなく、休みもとれている。しかし、有給は前もって調整が必要です。

・業務休業中の為。

### 4、業務について相談できる相手はいますか？

職場内にいる【8】

職場外にいる【1】

いない【1】

### 5、実際に従事してみて訪問介護は社会的にどのように役割であると感じますか？

介護の専門家【5】

家事支援の専門家【2】

医療従事者【1】

なんとも言えない。【2】

その他【1】

・ヘルパーさんと考え方が違う時、人としてどのような想いで仕事に取り組んでいくか、ヘルパーさんひとりひとり考えが違うので、難しい時もあります。

・何でも屋

## 6、スキルアップのための研修等の参加はしていますか？

職場で実施。【7】

外部の研修に参加している。【4】

していない。不十分と感じる（必要は感じるけどいけない等。）【1】

必要を感じない。【0】

- ・ 制度改正に時期には県の訪問介護フォーラムに参加しました。
- ・ 中々対面研修が少なくならざるを得ない状況ですが・・・。
- ・ リモートで介護福祉士会でロボット活用をうけました。
- ・ ヘルパーさんにはリモートは難しい人もいるので何か工夫して介護技術したい。
- ・ 救命救急の手順のシミュレーションをしてみたい。
- ・ 爪切り、家庭の道具を使用したアイシング、ケリーパッド使用の洗髪等。

## 7、現在、職員は足りていますか？

足りている。【1】

足りない。【7】

どちらともいえない。【4】

## 8、全国的に介護人材不足と報道等でされていますが、職員（ヘルパー）を定着させるために何が必要と思いますか？（複数回答可）

業務内容の確立【5】

社会的評価【6】

収入保証【8】

労働環境の改善【3】

その他【0】

- ・ 仕事の負荷やストレスの溜まり具合、収入の高低、教育の有無、職業としての安定性色々なことが多職種より上回れば定着するのではないか。
- ・ 業務環境（自宅・汚い・寒い・暑い）など訪問介護は他の介護職に比べ大変だと感じる。新職員にも手をかけているつもりであるが、長続きせず・・・。何が必要であるのかわからない。
- ・ 曜日で動いてくれるヘルパーさんにはなるべく移動を少なく考え近場等の配慮が必要。
- ・ ヘルパーさん移動時間を含むと交通費が支給されても安いかなと思います。
- ・ レベルアップ必要だと思います。
- ・ この位のことしか出来ないという状況も目にします。それでは良い人も集まらないしその程度の職業という事になってしまいます。ヘルパー2級、初任者研修の後の研修などが無いからか・・・。質の確保に心配しております。
- ・ エンゲージメントを高める事。

## 9、事業所間の横のつながりは必要であると思いますか？

必要と思う【6】

必要ないと思う【1】

あってもなくても良い【3】

- ・ 管理者やサ責レベルではつながりが必要と思うが、一般のヘルパーは必要ない。
- ・ 介護に関するニュースや困りごとを相談したり事業所が廃業した際の転職時等。
- ・ 困りごとの相談や情報共有ができる。
- ・ サービス対応できない時に連携する事ができる。
- ・ あまりヘルパーさん同士のつながりを持つと、関わっていない利用者の情報が漏れたり新規をお願いしづらい。
- ・ 自分の考えが間違っていないかどうか？振り返ってみるときなど。
- ・ 加算や対応などわからないことがあるとき、他事業所はどうしているのかと聞きたいと思います。色々教えていただきたいです。

## 10、研修や事業者間の交流があるとすれば参加しやすい頻度、時間を教えてください

\* 現在、第2週目の火曜日午後6時～午後7時半開催しています。

頻度：(週1回【0】 月1回【5】 半年に1回【1】 1年に1回【0】)

曜日：(月【1】 火【4】 水【1】 木【1】 金【1】 土日【1】)

時間：(早朝【0】 午前中【2】 午後【3】 夕方【5】 夜【2】)

忙しくて時間は取れない。【4】

- ・ 土日以外の18：30以降が良い。
- ・ 現在の状況で良いです。日中はなかなか時間が取れない。
- ・ リモートはテレビを見ているようで現実的ではないかなと思う。
- ・ 日中ですと参加できる事もあるのですが。

## 11、あなたが訪問介護を始めようと思った理由を教えてください（複数回答可）

人のために仕事がしたいと思った【7】

時間の有効活用【1】

自分にもできると思った【5】

その他【6】

- ・ 承認欲求、社会への所属欲求を満たすため。
- ・ 職業の安定性を求めたため、職業訓練の方が「訪問は楽しいよ。」と仰っていた。
- ・ 何か役に立ちたいと考えていた時に誘われて。
- ・ 居宅支援事業、通所介護事業を行っておりそれらを通じて訪問介護事業の必要性を感じ昨年より開始しました。
- ・ 始めたころは空いている時間に仕事できたから。

- ・父の介護をしており亡くなるときに人の世話をしなさいと言われて始めました。
- ・サービス提供責任者がいなかったの。
- ・人間の生活が一番大切な事、病気があっても年をとっても自分の家が一番落ち着くでしょう？そこを支える、丸ごと支える素敵な仕事です。

12、もし自分の子供や大切な友人が訪問介護士になりたいと言ったら。

大賛成【2】

賛成【4】

反対【1】

その時にならないとわからない【4】

**最後です。訪問介護のやりがい、良かったエピソードぜひ教えてください！**

- ・誰かの役に立っている実感を得やすいと考えます。様々な高齢者の方たちと接する事で自分の老後はこうありたいなとかこうなりたくないなという、老後に関する意識を持ってました。準備していた話題などで利用者様に楽しんでいただけると嬉しさを感じます。
- ・ご利用者様と1対1で接する事が多く、個々の対応に苦慮する面はありますが、逆に信頼関係も築きやすく本人の喜んでる姿を見ると少しでも困っている方へ貢献できているのかと思う。
- ・利用者様が最期まで自宅で生活でき望む生活ができたと思う時。
- ・最期を自宅で過ごしたいと思う利用者様が望み通りの支援をできたとき。
- ・訪問の帰り際、ありがとうございます。助かりました。と声をかけられる事（やりがい）入浴中に意識をなくしてしまった方に大きな声で声かけし意識を戻された時。
- ・ヘルパー訪問により一緒に食事を考え、食事量が増し元気になった時。
- ・食事作りを通して意見の交換をし、共通理解をする事によりヘルパーの訪問を楽しみにされ生活に張りが出てきたと喜ばれた時。
- ・日常の生活に追われている自分にサービスを通して仏様のような気持ちにさせていただくことがある。そんな時、この仕事っていいなあと思うし安らぎを感じる。
- ・不安を抱えながら生活している方にとってヘルパーは心強い味方であることをたくさんの方にお話ししていただきます。そんな時にはうれしく思います。
- ・古い話ですが、まだヘルパーになって日の浅い時は「あなたが壊れた家を支えて、おさえてくれる夢を見た。」と言われ笑ってしまいました。そんなに力持ちではないけどうれしかったです。頼りにしてくれていると元気ができました。いまでも忘れません。
- ・ヘルパーの業務は一人一人に寄り添ったマンツーマンでの個別ケアが実現でき、心身状態やニーズに添ったサービス提供にご利用者本人やご家族に感謝の言葉を頂くと仕事に対するモチベーションが維持できます。

以上。ご回答ありがとうございました。